

【担当教員名】 長谷川隆雄	対象学年	1	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

1. 看護ケアを必要としている人との関わりを通して、援助の人間関係を理解する。
2. 看護ケアを必要としている人のニーズに応じた日常生活援助の方法を学ぶ。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 受け持ち患者に関心を持つことができる。
2. 受け持ち患者とコミュニケーションをとることができる。
3. 受け持ち患者との相互作用について気づくことができる。
4. 受け持ち患者のニーズを理解することができる。
5. 受け持ち患者の安全、安楽に配慮し、日常生活の援助が実施できる。
6. グループ運営に積極的に参加し、実習の学びを展開させることができる。
7. 看護をする人として、適切な態度をとることができる。
8. 実習での学びを通して、今後の学習課題を明確にすることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	1. 患者を一人の人間として尊重して接し、積極的に関わる	1	実習（基礎看護学全教員）
	2. 患者にあった方法を選択し、意図的にコミュニケーションをとる。	2	
	3. 患者の体験について共に感じ、言動や気持ちの変化に気づく	3	
	4. 患者との関わりの中で、自分自身の気持ちや態度の変化に気づく		
	5. 患者の入院前の日常生活習慣や考え方を知り、入院によって変化したことを理解する	4	
	6. 患者の状態に応じたフィジカルイグザムを実施する		
	7. 健康上の問題によって生じた生活行動上の制限や変化が患者に及ぼす影響を理解する		
	8. 患者の状態を考慮して具体的な援助を計画し、実施する	5	
	9. 患者の反応を捉えながら、自立性と効率性を考慮して援助を実施する		
	10. 行った援助について振り返り、考察する		
	11. 実習に積極的な姿勢で取り組み、他の学生と学びを共有する	6	
	12. 個人情報保護の観点から、守秘義務を守る	7	
	13. 時間を守り、身だしなみを整え、適切な言葉使いができる		
	14. 自己の健康管理ができる		
	15. 実習で学んだことについて課題を設定し、レポートする	8	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	基礎看護学実習Ⅰ要項			

【評価方法】	【履修上の留意点】
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習目標の達成状況：60点</li> <li>2. 実習レポートの内容：20点</li> <li>3. 出席状況：20点</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を対象とした実習であることを念頭に、対象の安全の確保やプライバシーの保護 など、倫理的な配慮には十分に留意する。</li> <li>2. 日常生活の看護技術およびフィジカルアセスメントについて、事前に十分学習することが重要である。</li> </ol>